vol.194
Friday,November,29,2024

PTAみやぎ

MIYAGI Parent-Teacher Association

地域ぐるみで育てよう,心豊かでたくましい「みやぎの子」

第56回日本ＰＴＡ東北ブロック研究大会東青大会……２～３
ＰＴＡかわら版……４～５
第72回日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会に参加して……６
編集後記……６

「はまらんや踊り」でパワー全開

令和６年度から気仙沼市立気仙沼中学校と気仙沼市立条南中学校が統合し、新生気仙沼市立気仙沼中学校がスタートしました。８月には、統合後初となるＰＴＡ行事として、「気仙沼みなとまつり」の一部として披露される「はまらんや踊り」に気仙沼中学校チームとして参加しました。

「はまらんや踊り」は、「気仙沼みなとまつり」で特に注目される踊りの一つ。参加者が一糸乱れぬ動きで賑やかに踊り、祭りの雰囲気を盛り上げる一大イベントです。歌と音楽に合わせて、２時間踊り続ける子どもたちにはパワーとエネルギーに溢れていました。これからも地域を盛り上げる学校であり、子どもたちであって欲しいと思います。

通信員　奥原　幹雄

宮城県PTA連合会
☎ 022-295-9581　fax 022-256-0425
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町四丁目5-1（県青年会館内）　http://www.miyagi-pta.gr.jp/

第56回日本ＰＴＡ東北ブロック研究大会
東青大会 令和６年 ９月７日(土) ８日(日)

令和６年９月７日（土）に青森県内６会場で第56回日本ＰＴＡ東北ブロック研究大会東青大会の分科会が開催され、８日（日）はリンクステーションホール青森にて全体会が、浅野直美大会副会長（宮城県）の開会のことばを皮切りに開催されました。

開会行事

主催者あいさつとして東北ブロックＰＴＡ協議会横岡千和子会長から、大きな影響を受けたコロナを経て、時代の流れとともに全国では、あちこちからＰＴＡに対して理解を得られない声が聞こえたり、その存在意義に疑問符が付けられたり、難しい時代を迎えておりますが、このような時だからこそ私たちが、その必要性や重要性を再認識し、これからの子どもたちのために何ができるか、どうあるべきかを模索することが必要で、同じ東北の仲間である皆さんと共に、その意義や存在価値を様々な視点から討議を得ることで、認識を深め東北全域のＰＴＡの活性化や、東北の全ての子どもたちがこれからも笑顔で夢を描いていけるよう皆で力を合わせ活動できる起因となることへの願いを話されました。

続いて来賓を代表して、青森県知事宮下宗一郎氏と公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会会長太田敬介氏よりご祝辞を頂き、開催地である青森市長西秀記氏（代読：赤坂寛副市長）から歓迎のあいさつを頂きました。

開会のあいさつをする浅野直美会長(宮城県)

来賓紹介後に感謝状の贈呈と優良ＰＴＡの表彰式が行われ、続いて山下泰幸大会副会長（岩手県）より大会宣言（案）及び大会決議が読み上げられ、参加者の拍手により承認されました。引き続き公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会太田会長から横岡青森県ＰＴＡ会長へ感謝状の贈呈、最後に武田靖裕大会副会長（山形県）の閉会の言葉にて大会の一切が無事終了いたしました。

記念討論会

記念討論会では、ＰＴＡの歴史や社会教育関係団体としての位置づけ、日Ｐの繋いできた活動内容、単Ｐから日Ｐまでのスムーズな情報共有の必要性、それぞれの役割やポジション、行政との接点についてなど、多岐にわたる討論がなされましたが、一番印深かったのは皆さんご存知の「ＰＴＡの歌」にまつわるエピソードについてです。

その作詞は宮城県登米出身の春日紅路氏が公募で採用され、当時どのような思いでこの「ＰＴＡの歌」を作ったのかという内容でした。彼は「教育は学校だけがするもの、とか或いは受け持ちの先生が全責任を持つべきものであるとかと、いったような誤ったあなた任せの古い考えは捨てよう。一人ひとりが高い知性と深い愛情を持たない限り、いくら学校の制度を変えてみたり、ＰＴＡの組織をいじくりまわしてみたところでどうにもならないのだ。」との思いを昭和26年の登米小学校会報に掲載されており、戦後間もない当時の社会環境の中でありながら、最近でも同様なことを言われている問題意識を持っていたことについて紹介されました。

私たちのＰＴＡ活動において、子どもたちのために集い、学び合い、子どもたちの成長を見守り繋いでいく必要性は、今も昔も時代を問わず変わらないと感じました。

調査広報担当副会長　尾坪　博史

第２分科会　教職員のためのＰＴＡ活用法

パネリストの宮城県ＰＴＡ連合会副会長平吹淳氏は、ＰＴＡとは保護者と教職員の相互協力により、家庭、学校及び地域が一体となって将来を支えてくれる子どもたちの健全な成長を図ることが目的であり、ＰＴＡ活動の『１丁目１番地』だと考えていると話されました。

多くの保護者の思いは、学校で子どもたちが学力向上だけでなく様々な経験を経て、心身ともに成長することです。それが学校で学ぶ最高の授業であると思います。

そのために私たち保護者はＰＴＡ活動を通して、学校と家庭との緊密な連携や学校の教育施設の充実と環境の改善、子どもたちへの健全な教育と奨学援助の充実など、学校に対して少しでも寄与できることを模索し実行しています。

先生方には、『学校で最高の授業』を学んでほしいという保護者の強い願いを叶える方法として、ＰＴＡを活用していただければ幸いですと熱い思いを語りました。

調査広報委員長　湯山　栄大

第２分科会パネリスト　平吹 淳氏

第４分科会　マルチスポーツの可能性と運動部活動地域移行について

第４分科会の基調講演は、荒川栄氏から『マルチスポーツの可能性と運動部活動地域移行について』をテーマに講演をしていただきました。荒川氏はマルチスポーツとは、主に年少期に多くの経験を積ませ、将来的に最も得意なスポーツを選択できる力を身につけること。また、運動部活動地域移行については、部活動と地域クラブとの連携【融合】が最も重要であると話されました。

その後、荒川氏と４名のパネリストで部活動地域移行についての討議が行われました。地域移行することが最終的なゴールではなく、地域と学校やクラブが連携し、持続可能で多様なスポーツ活動環境を確保することが大事ではないかとの意見も出されていました。複数のパネラーの意見を聴き、改めて部活動地域移行について考える契機となった分科会でした。

副会長　佐々木　篤志

第４分科会パネリスト　小泉 一樹氏

第５分科会　子どもたちの立場で学校統廃合の実態を考える

第５分科会では『子どもたちの立場で学校統廃合の実態を考える』をテーマに５名のパネリストの方々から、実際に統廃合に関わってきたご自身の経験をもとにお話しいただきました。

宮城県ＰＴＡ連合会副会長尾坪博史氏の『当事者である子どもたちとしっかり向き合えたか？それぞれの立場で向き合って話はできなかったのではないか』という言葉が印象的で心に残っています。

分科会を通して、子どもたちは私たち大人が思っている以上に物事を冷静に考える力を持っていること、子どもだからと決めつけるのではなく当事者である子どもたちとしっかりと向き合いながら一緒に考え、意見を言える機会を作ることが何よりも大切であると感じました。

未来を担う子どもたちのために、今後も学校・家庭・地域とともに、よりよい教育環境を目指していきたいと思います。

副会長　佐藤　英

第５分科会パネリスト　尾坪 博史氏

かわら板

丸森町

流し素麺で深まる交流

通信員　鳥居　恵理香

丸森町は町内８校あった小学校を再編し、令和４年度から、２校の新小学校をスタートさせました。その後、旧校舎と校庭はどんどん寂れていきました。そこで丸森小学校では「旧校舎を生かそう」という地区親子活動を行いました。

そのうちの１つ、旧金山小学校では、児童、地域の方、ＰＴＡで流し素麺大会を行いました。

大人が準備して、子どもたちと一緒にいろいろな物を流して食べました。みんなでワイワイ楽しくおいしい交流会となりました。

蔵王町

新たな交流事業の実施に向けて

通信員　松崎　正知

蔵王町父母教師会連合会では毎年恒例だった交流事業は「バレーボール」でしたが、コロナ禍で中止、さらにはＰＴＡ会員数の減少により、チーム編成や練習時間の確保が困難となる理由から廃止が決まりました。

その代替として、誰にでも気軽に参加できる「ボッチャ」を今年度は実施することとなりました。各校では、蔵王町社会福祉協議会の方々から協力をいただき、実際にゲームを行いながらルールや審判法を学ぶ研修等を実施してきました。

計画・準備に試行錯誤しながらではありますが、本番当日に向けて楽しみにしているところです。

多賀城市

あるＧＯｄａｙ事業

通信員　星山　純一郎

少子化や親子の関わり方が変化し、学校への登下校も変化しています。その中で登下校を保護者の車で送迎するのが目立つようになりました。そのような影響もあり、昔に比べると子どもたちの体力低下や自立心の遅れが問題視され、多賀城市立多賀城小学校では毎月５日（お休みの場合は振替）の登校は余程の事情がない限り、児童が自分で歩いて登校する「あるＧＯ ｄａｙ」を開催しています。

この事業は自分の足で歩いて登校するという経験を通して、子どもの自立心を養うことを目的としています。雨の日の傘の使い方や、交通ルール、季節毎に変わる風景を肌で感じて、体力と豊かな心を養うことで子どもたちの健やかな成長となることを願って開催しています。

PTA

石巻市

「楽しい思い出づくりツアー」ボウリング大会

通信員　近藤　裕紀

毎年「楽しい思い出づくりツアー」と題し親子行事を開催しております。2年前までは夏休み最終日曜日に北上町の白浜海岸での浜遊びを実施しておりましたが、昨今の異常気象の影響で子どもたちに危険が及ぶ暑さのため、昨年度より室内での「ボウリング大会」に内容を変更しました。今年度も多数の応募があり、参加者は抽選となりました。

学年、学校等違うグループ分けにし、最初は遠慮がちにしていた子どもたちも、ゲームスタートの合図で始まってしまえば、笑顔のハイタッチで喜びあっていました。

ゲーム終了後、くじ引きや成績発表でさらに盛り上がり「是非、来年も参加したいです。楽しかったです。」等の声を貰いました。

名取市

那智が丘地区大運動会

通信員　髙橋　絵里子

名取市立那智が丘小学校では、令和6年5月18日に那智が丘地区大運動会が開催されました。現在市内でも実施しているのは数少ない小学校と地区での合同運動会です。

日頃の練習の成果を発揮して頑張った子どもたちと、未就学児のちびっ子から、いつも温かく見守って下さる地域の方まで幅広い年齢層の方々が参加しました。初夏の眩しい晴天の下で熱い戦いが繰り広げられ楽しいひと時となりました。那智っ子にとって地域の方々の温かさを感じられる貴重な思い出となったことでしょう。

遠田郡

努力の成果

通信員　大上　さつき

令和6年9月21・22日に室内競技が、雨天順延で25・26日にも分かれて新人戦が行われました。各部、いつも以上に練習を重ねて、本番をむかえました。残念ながら雨で日程変更を余儀なくされた部もありましたが、みんなそれぞれ日頃の努力が報われたり、悔しさで頬を濡らしたり。次の目標を掲げ、また一生懸命に練習に励んでいます。

結果も大事ですが、そこまでの過程や仲間との絆が部活動を通して得ることができるのは、子どもたちにとって財産だと思います。そして保護者もまた、子どもとのおかげでつながる縁に感謝しつつ、これからもサポートしていきたいと思います。

報　告

http://www.miyagi-pta.gr.jp/
☎022－295－9581・9590

第72回日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会に参加して

去る８月23日から24日に神奈川県川崎市において第72回日本ＰＴＡ全国研究大会川崎大会が開催され、宮城県からは宮城県ＰＴＡ連合会浅野直美会長はじめ総勢28名が参加しました。本大会はＰＴＡの縁に改めて気付き、家庭・学校・地域の縁が織りなす道を通じて、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態）を社会に広げることを目指して開催されました。

全体基調講演では、誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて～全ての子供たちに「生まれてくれてありがとう」を届けよう！～を研究課題として、西野博之氏（認定ＮＰＯ法人フリースペースたまりば理事長）よりご講話をいただきました。

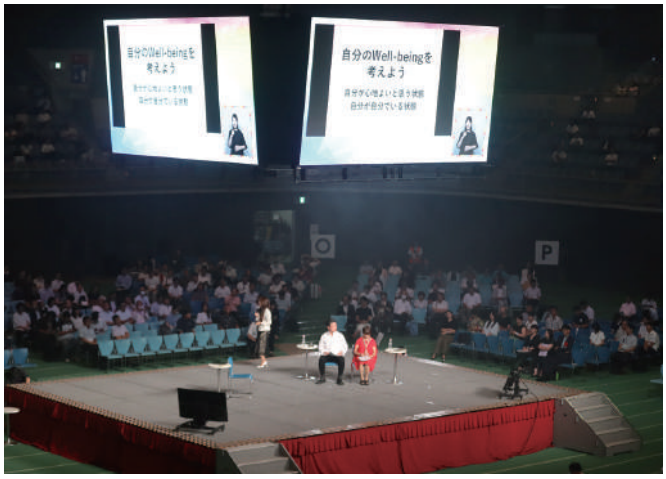
講話の中で西野氏は、川崎市では全国に先駆けて2000年に「子どもの権利に関する条例」を制定し、その条例の具現化を目指し、子供が安心してありのままの自分でいられる場として子供夢パークを建設。子供夢パークは、やりたいことができる空間であり、自分の責任で自由に遊ぶ場。安心して失敗できる環境が大切だと語ります。

そして、遊びが持っている力として最近注目されてきたのが非認知能力、数値化できない力です。人間として生きていく力を育むことが大切で、その力は決して教科書では手に入らないもの。予測不能なことが起きた時に、どう社会を存続させるか。正解のない問題に立ち向かい自分の頭で考え、時に人と対話して粘り強く問題を解決していく力がこれから大切になると述べました。さらに、答えを出すことが大人の役割ではなく、「きっと大丈夫」と“大丈夫の種”を蒔いてあげよう。親も失敗して良いのだと、助けを求め、適度に人に依存できる力が自立には必要だと続けました。

最後に、「生まれてきてくれてありがとう。あなたがいてくれて幸せだよ。」と眼差しや態度、言葉で子供たちに伝えることが大切です。生きている、ただそれだけで祝福される。生まれてきただけで奇跡。生きているだけで奇跡なのだと。子供たちが「生まれてきて良かった。生きてるって楽しい。」そう思える社会を実現していきましょうという西野氏の熱いメッセージで締めくくられました。

ＰＴＡの原点である“子供たちを慈しむ心”が、家庭・学校・地域へと広がり、さらに社会のウェルビーイング実現へと向かっていくのだと学び考える研究大会となりました。

調査広報委員長　湯山　栄大



編集後記

最近ニュース等でＰＴＡ活動についての記事を見かけます。共働きのご家庭が多くなり、活動時間がとりづらくなっている方々も少なくはないでしょう。今後のＰＴＡ活動の在り方も模索しつつ、まずは子どもたちの為に何ができるのかを学校、家庭、地域とのコミュニティ・スクールを活用しながら考えていかなければならない時期にきたのだと思います。

一人ひとりが協力し合いながらも一人の負担を軽減し、より良い活動が今後もできるようご協力をお願いいたします。

調査広報委員　大森　憲市

環境に配慮した用紙・インクを使用しています。

ＰＴＡみやぎ第194号　令和６年11月29日発行　年間購読料150円
発行所／宮城県ＰＴＡ連合会・印刷／有限会社 南郷印刷